

## 平成 29 年度の流域連携テーマ・イベント等の活動成果

### 1-1 流域連携テーマ

流域連携テーマと解決手法を以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
ごみ・流木	海部会 WG を中心に実施するごみ・流木に関する検討のうち、「ごみマップ」をベースにして成果を公開
土砂	矢作ダムの土砂を海へ運ぶ「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしくみを形成
木づかい	山部会 WG で検討されている「木づかいライブ・スギダラキャラバン」や「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ取り組みの展開

### 1-2 平成 29 年度の活動成果

#### ごみ・流木

- ・22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカーション」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場「南陽工場」の見学など **“ごみ”を通じて環境を学ぶ** ことができた。  
(第 34 回海部会 WG)
- ・愛知県主催の「海ごみ減らそうフォーラム」に参加し、猿渡川・家下川のごみの実態確認、関係機関（国、NPO 等）の取り組み、参加者によるワークショップ（グループ討議）を通じて、**参加者がごみを減らす必要性について再認識** した。  
(2017. 11. 25 岡崎市)



藤前干潟の清掃活動



海ごみ減らそうフォーラムの開催状況

#### 土砂

- ・阿摺ダム下流（ソジバ）におけるアユの生息環境改善実験を視察し、河床のアーマーコート化の改善や生物相の回復状況について意見交換を行った。**礫置き区（矢作ダム底の礫）で、アユおよび底生動物（現存量）が増加** していることがわかった。  
(第 38 回川部会 WG、第 44 回海部会 WG)
- ・市民会議では、天竜川における竹いかだ下りに注目して、川のいかだ下りについて議論され、**同時に市民が砂を運べば、自然の働きの大切さがわかる** という意見が出た。これは、過年度に議論された「砂の駅」構想につながるものである。  
(第 8 回市民会議)



阿摺ダム下流の現地視察実施状況



放棄竹林の利活用

## 木づかい

- ・矢作川感謝祭では、岡森フォレストーズが林業に関する歌を披露し、豊田森林組合が高性能林業機械の実演を行った。また、根羽村森林組合による「動く木のおもちゃ」の展示では、プレイスメイキングにより多くの親子が集まっていた。

(2017. 9. 2 開催)

- ・岡崎市や豊田市において、地元産材の活用事例や活用目標について、情報共有と意見交換を行った。

(第9回山の地域部会)

- ・アンフォーレクールチョイスフェス (2017. 8. 19~20 安城市)、あそべるとよた 4days・いなかとまちの文化祭 (2017. 11. 25 豊田市) では、根羽村森林組合が中心となって木づかいを推進した。特に、根羽スギを利用した本箱と図書のコラボレーション “どこでもライブラリー” においては、多くの市民が本箱作りを経験した。

- ・昨年度の全体会議で配布した 「流域ものさし」の活用実績と今後の活用方法について意見交換を行った。

(第43回山部会WG、第8回市民会議)

## 2 流域連携に関するイベントの活動成果

### (1) 事例集交流会 2017

(2017. 4. 15 根羽村)

山村再生担い手づくり事例集に掲載された団体の代表者が現況を報告し、意見交換を行った。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、大変有意義なイベントとなった。

### (2) 矢作川感謝祭

(2017. 9. 2 豊田市)

これまでは、豊田市民を対象とする川のイベントだったが、平成29年度は 山部会の部会員も実行委員会に加わり、参加団体には矢作川の 上下流の農業、林業といった山の関係者も参加する流域を対象としたイベントに拡大した。

### (3) 海ごみ減らそうフォーラム

(2017. 11. 25 岡崎市)

愛知県主催の本フォーラムでは、午前中に、猿渡川と家下川で川ごみの実態を視察した。午後からは、環境省、国土交通省、(一社) J E A N、22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、一色川の水辺を美しくする会及び岡崎市の取組発表や参加者によるグループ討議が行われた。懇談会のメンバーも多く参加し活発な意見交換を行うなど、有意義なフォーラムとなった。



矢作川感謝祭における木づかい推進



根羽スギを利用した本箱づくりの様子



流域ものさしの活用方法の検討



事例集交流会の様子



矢作川感謝祭の実施状況



海ごみ減らそうフォーラムの実施状況



# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 流域連携 vol. 1



発行日：平成 29年 5月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆山村再生担い手事例集交流会 2017 を開催しました！

矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、矢作川流域で農業、林業、林産業、定住支援などの中山間地振興に携わる団体・個人の活動情報を共有し、生産者と消費者、農村と都市の住民、関連する団体・個人同士のネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」Ⅰ～Ⅲを、2013（平成 25）～2015（平成 27）年度にかけて作成しました。この事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。

日 時：H29年 4月 15日（土） 14:00～18:00

場 所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」

参加人数：29名（事務局を含む）



## ◆交流会の活動報告と活動紹介について

### 1. 活動報告



#### ■根羽村森林組合

今村豊さん（参事）

上下流連携ということで、特に流域への木づかい推進に力を入れています。例えば、根羽スギを活用した簡易セルフビルド「3坪の家」、家族風呂などは、市民に人気が高いことがわかりました。また、「動く木のおもちゃ」などのどこでもシリーズは、プレイスメイキング（居心地のいい木の空間づくり）としての効果が認められ、豊田市や安城市などで事業展開を行っています。

今後は、日本全国や海外にも流域の木づかいを発信するとともに、矢作川の流域木材を使用した「流域ものさし」を市民に広げ、流域一体化につなげていきたいと考えています。

#### ■奥矢作森林塾

大島光利さん（元代表）

我々の活動の原点は平成12年9月（東海豪雨・恵南豪雨）に矢作ダムに流れ込んだ流木にあります。その後、地域振興、森林管理、施設管理を柱とした奥矢作森林塾を設立しました。団体では日本一の炭窯を作り、ダムに流れ込んだ流木の消費に努めています。また、適切な山の管理のためには、人口減少対策が重要であると考え、古民家のリフォーム塾を立ち上げました。これまでの8年間に国内や海外から24世帯56名が串原に移住し、そのうち13名が山林の仕事に携わっています。

#### ■とよた都市農山村交流ネットワーク 山本薫久さん（代表）

活動の目的は、都市と農山村が交流する場をつくることによって、都市部の人たちに農山村の魅力を伝えるとともに、農山村を活性化することです。特に都市農山村交流事業の一つである「セカンドスクール事業」は、2008年から続く活動の柱であります。セカンドスクールとは、豊田市内の希望する小学校が行事として、2泊3日の農山村体験をするというもので、これまでに400人弱の子どもたちが豊田の農山村で自然体験（農業体験、山里の料理、食器の手作りなど）をしました。子どもだけでなく、保護者からも好評を得ています。

本団体は今後「おいでん・さんそんセンター」に統合されますが、セカンドスクール部会として継承することになっています。





### ■豊森なりわい塾

### 立松昌朗さん（卒業生）

豊森なりわい塾が面白いのは、毎年20~30人が受講しますが、自分のやりたいことを学んで、いろいろな仲間やフィールドをみつけて、あらゆる方向に巣立っていく形式をとることです。私も豊森なりわい塾の2期生として、2013年に卒業しました。現在「A trip to lwamura」と「いのちのめぐる家づくり」という2つの活動を立ち上げ、農山村と都市の人々の交流を図っています。

「A trip to lwamura」は、都市の若者や外国人を対象に、棚田（坂折棚田）での農業体験、宿泊を行うものです。外国人枠はすぐに定員に達する反面、日本の若者はなかなか集まりません。

「いのちのめぐる家づくり」は、茅の吹き替えなど古い家の手入れを通して、日本の伝統や美しさを都市に発信したいです。

### ■株式会社 M-easy

### 戸田友介さん（代表）

2009年より始まった「日本再発進！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」がきっかけで、10名の若者が豊田市旭地区につながりを持つようになりました。その後、紆余曲折を経て、7人が独立して移住、現在は福蔵寺を拠点に農業、林業、ご縁市、地域スモールビジネス研究会、雑誌の発行、合唱団の運営、消防団、新聞配達など多岐にわたる活動を行っています。

思えば、これまで順風満帆ということはありませんでした。たくさんの方の壁の中で、「あんたらが居てくれるだけでうれしい」という地域の方の一言が大きな支えになりました。これからも社名である Making the earth alive synergy；自然の恵みと脅威に寄り添いながら、時代の荒波にもまれながら、未来を育ててきた先人たちへ思いを馳せるという精神のもと、活動を続けたいと思います。

### ■農業生産法人 みどりの里

### 野中慎吾さん（代表）

2008年より豊田市のスーパーやまのふの自社農園をしております。団体のモットーは無肥料、無農薬という自然栽培ですべての農産物を栽培しており、現在8haの農地に米、野菜、イチゴ、ブルーベリーなどを作っています。

私は以前、無農薬というのは量が取れないと勝手に思い込んでいました。しかし、自然栽培と農薬・肥料使用の比較を行うと、徐々に自然栽培が追い付いて、最後は圧勝しました。また、自然栽培だと虫や鳥による食害があまりないのです。例えば、ヨトウムシなどは、あまり栄養のない葉を食べても大きくなれず、病気にかかって減少します。自然のルールは、うまくできているものです。

現在では、一年を通して無農薬のお米を販売できるようになっています。また、自然農法を障がい者と一緒に取り組む『農福連携』、green mamanさん（豊田市在住の4人の母親が集まって作ったグループ）との連携を通し、やさしい形に社会を変えていきたいですね。

### ■額田木の駅プロジェクト実行委員会 唐澤晋平さん（事務局長）

岡崎市全体の人口は徐々に増加する中で、額田地域は減少の一途をたどっています。昔から林業の町であり、昭和の中ごろまでは非常に栄えていました。ところが、林業の低迷により、間伐の遅れが目立つ状況でした。そんな中、額田林業クラブ、森林組合、町の商工会の人たちと話し合いを重ねて、平成27年に「額田木の駅プロジェクト」がスタートし、現在3年目に入っています。出荷量は1年目が830t、2年目が1,300t、登録者100名、50店舗で森の健康券（地域通貨）が使えるようになっていきます。2年間で約2,000tの間伐材を出荷し、地域通貨としては1,100万円くらい発行しました。最近の動きとして、林業クラブに入っていない人たちも少しずつ参加するようになってきて、いろいろな山主に目を向けてもらいたいという当初の目的が達成できてきたと実感しています。3月には、木の駅サミットを額田で行い、国内外から木の駅の実践の情報交換を行うことができました。





## 2. 活動紹介



### ■天下杉

### 石原朋子さん ほか

約25年前、根羽村商工会の都市の交流事業の中で、根羽村大豆から「ふれ愛豆腐」が生まれ、お年寄りに配ったところ、お年寄りから「母親の手作りの味がした」「懐かしい子どもの頃の味がした」といった感謝が寄せられ、何か他に喜んでいただけることがないかと思いついたのが、演芸による慰問活動（ボランティア）でありました。主な活動対象は、老人福祉施設や身障者支援施設であり、活動内容は歌、舞踊、寸劇（シンクロ）など多岐に及びます。また、活動場所は飯田市をはじめとする南信地域が主ですが、岐阜県や愛知県での講演も行っています。

私たちは、お年寄りの中では売れっ子なんです！ただ、若い方からのオファーは何故かありません。山村再生担い手づくり事例集の作成は素晴らしい活動で、そのお陰で、私たちは皆さんと会うことができました。年齢が年齢だけに、来年お会いできるかは分かりませんが、生きている限り、この活動を続けていきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いします。



### 【交流会を通じて感じた事】

#### ◆よかったと思うこと

- ・発表されたすべてのグループからパワーをいただきました。
- ・直に発表を聞くと、紙面より伝わるところが大きいです。M-easyの戸田さんのお話は、実によく分かりました。「自分が何をしたいのか。」を基本として歩むこと。覚悟すると開かれていくとか。革命とは暮らしが変化することなのだ気づかされます。みどりの里の自然栽培がおもしろい！！すごい！！農福連携には希望があります。
- ・顔を見ながら写真を見ながら話を聞くと、名言が心まで届きます。
- ・発表だとみなさんの活動がよくわかってすごく良かったです。
- ・大変すばらしい。異なった分野の話はなかなか聞けません。そんなところ今回は、とても面白くまたとても参考になりました！また、どんどんやりましょう！！
- ・根羽村森林組合の木を使った様々な製品は多くのもを手がけておりそれを実製品にして世に出していただけることは素晴らしいと思います。みどりの里の取り組みはいいですね。この農法が広がって行く事を願っています。

#### ◆改善してほしいこと

- ・もっと一人一人の話をお聞きしたかったです。質疑の時間が少しでもあればもっと盛り上がったのでは？
- ・参加者が少ないです。特に宿泊者。できればいろいろな分野の取材団体が来て交流してほしいです。
- ・会場を毎年変えながら、若い人、女性なども参加しやすい環境をつくる工夫が必要です。

#### ◆今後に向けた進め方の提案

- ・矢作川流域圏懇談会は発足から7年経過して山部会を始め随分充実してきたと感じます。（自画自賛？）全国に先駆けて始まった懇談会ですから、今後は広く全国的な多くの人々に広報できることを考えていただきたいと思います。
- ・山本さんの報告にあったように、この地域の森の動き、里の動きを経過を追って体系的にまとめた冊子もあるといいかも知れません。1年に1度でも交流会があれば、つながるポイントも見い出せる可能性があります。
- ・毎年やりましょう。連携して祭りも計画しましょう。

#### ◆質問など

- ・田んぼのオーナー制度について、田んぼは水管理が必須ですが、誰がされているのでしょうか？
- ・茅葺きのカヤはどこで調達されますか？

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 指導官 小林、係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 流域連携 vol.2



発行日：平成 29年9月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆2017 矢作川感謝祭に参加しました！

矢作川感謝祭は、2014年、それまで別々に実施されていた「矢作川天然鮎感謝祭」と「矢作川さかな釣り大会」の同時開催で誕生しました。その後、昨年度までは豊田市民を対象とする川の関係者が主導するイベントでしたが、今年度は農業、林業といった山の関係者も加わり、矢作川流域を強く意識したイベントに生まれ変わりました。山からは、根羽村森林組合による木づかい推進、豊田森林組合による高性能林業機械の実演と薪割り体験、岡崎森林組合 岡森フォレストーズによるコンサートで場を盛り上げました。また、矢作川流域圏懇談会としては、パネル等による活動の紹介を行いました。

日時：H29年9月2日（土） 11:00～16:00  
場所：豊田市千石公園（豊田大橋下）  
参加人数：20名（事務局を含む）



## ◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

### 1. イベントの目的と内容（矢作川感謝祭 HP より）

#### ■矢作川感謝祭の目的

矢作川は本川だけで7つのダムを持ち、都市住民の生活、農業、工業などに徹底使用された過酷な環境の川である。しかし、矢作川は流域の人々の生活を支え、うるおいや安らぎを与えると同時に、アユやウナギなどの回遊魚をはじめ多くの生き物を育てている。流域での人々の暮らしや生き物の生命を根底で支えている命の水の循環は、森、川、海にあります。

委員会は、矢作川流域の課題を今一度再認識するとともに、矢作川流域の自然の恩恵にあらためて感謝し、その実力と魅力を多くの人々に伝え、共感と行動へとつながることを目的とする。

#### ■主なイベント内容

- ◇さかな釣り大会、川あそび大会、アユ釣り大会
- ◇岡森フォレストーズ オープニングコンサート・水辺コンサート
- ◇チェーンソー・高性能林業機械による実演
- ◇うたれん 水辺コンサート

ほか

### 2. 矢作川流域圏懇談会 出展状況

流域の一体化を目的に、以下の内容で参加しました。

#### ■根羽村森林組合

～動く木のおもちゃの展示（プレイスメイキング）～

上流の村から、「見て・触れて・感じて・楽しむ」移動大型遊具を設置しました！

#### ■豊田森林組合

～高性能林業機械の展示・薪割り体験～

チェーンソーによる薪割り体験、プロセッサ（高性能林業機械）による枝払い・玉切りの実演を行いました！

#### ■岡森フォレストーズ

～岡崎森林組合職員で結成されたバンド、本イベントの盛り上げ役～

キャッチフレーズは、「岡森フォレストーズの音楽は、山で強く伸びる松、まっすぐ育つ杉、愉しく暮らすカメムシだ！」





### 3. 矢作川感謝祭の開催風景



鮎釣り大会の様子



魚釣り大会の様子



矢作川下りのパチンコ



流域の名物の出店



薪割り体験



矢作川流域圏懇談会展示

#### 【矢作川感謝祭を通じて感じた事】

##### ◆よかったと思うこと

- ・豊田市の団体が中心となったイベントではありますが、流域を含めた矢作川の感謝祭という膨らみを感じた。
- ・動く木のおもちゃが小さい子どもにも大人気だったこと。近くにいるだけで、子どもたちに声を掛けられた。
- ・子どもが釣りに興味を示し、楽しそうだった。
- ・薪割り体験に参加する女性の多さに驚いた。

##### ◆改善してほしいこと

- ・矢作川流域圏懇談会のブースをもう少しメイン会場に近づけた方が良いと思う。
- ・森林組合の出展が炎天下であり、見物客が暑い思いをした。橋に近い場所で行うことで熱中症の予防になるのではないかと。
- ・水際までの導線が急だったため、もう少し緩い傾斜にすると子どもたちにとって安全だと感じた。

##### ◆今後に向けた進め方の提案

- ・今年度は従来の川部会の関係者に山部会が加わったが、海部会の関係者も加われればさらに盛大になると思うので、次年度に期待したい。
- ・各ブースでPRタイムがあると、興味を持ってもらえるのではないかと。
- ・矢作川流域圏懇談会の各部会として、成果をパネルにして説明できるとよい。特に、山間部～河口部での取り組みを情報共有することは、本イベントの目指すところだと思う。
- ・この時期は暑いので、散水ができると良い。

##### ◆その他（質問・感想など）

- ・今年度は流域連携として大きな一歩を踏み出したと思う。急がなくても良いので、毎年少しずつ進化することが望まれる。

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 流域連携 vol.3



発行日：平成 29年 12月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆海ごみ減らそうフォーラムに参加しました！

海ごみ減らそうフォーラムは、海ごみが内陸部を含めた県内全域の問題であることから、NPO、企業、行政等多様な主体が連携・協力しながらそれぞれの立場で海ごみ問題に取り組んでいく契機とするため開催されたものです。矢作川流域圏懇談会としては、フィールドワークやワークショップに参加し、海ごみの現状とゴミを減らすための対策について意見交換を行いました。

日時：H29年 11月 25日(土) 9:30~16:00  
場所：フィールドワーク・・・猿渡川、家下川  
発表及びグループ討議・・・岡崎市役所 福祉会館 6階ホール  
参加人数：80名(行政、企業、NPOを含む)



## ◆イベントの内容について

### 1. イベントの目的と内容

- 「私達の生活に伴って発生する各種のゴミ」は管理されないと公共の空間に放置されることになり、やがて河川、水路等を通じて海へと流れ着きます。したがってゴミ問題は「流域や流域圏全体で考え、対処方策を考えていくことが重要」という認識の下、多くの愛知県内外の各種団体や個人が参画し、体験の共有(フィールドワーク)、国、岡崎市、各種団体による話題提供、ゴミ問題に対処するためのグループ討議等を行いました。

### ● 内容

- ① 午前：フィールドワーク(猿渡川および家下川)
- ② 午後1：発表 環境省海洋環境室、国交省河川環境課、豊橋河川事務所、岡崎市、NPO団体等
- ③ グループ討議(ゴミ問題を解決するための方策)発表
- ④ 総評(大阪大学 青木伸一教授)  
(岡崎市役所福祉会館 6階ホール)



### 2. 矢作川流域圏懇談会の関わり

- 矢作川流域圏懇談会からは、海、川、山の各部会の有志のメンバーが参加しました。
- 午前中のフィールドワークでは、矢作川流域圏懇談会に古くからかかわっておられる近藤朗氏(猿渡川)、野田賢司氏(家下川)に川ゴミの状況や管理の状況をお話いただきました。
- また、午後の座学では、豊橋河川事務所の末松副所長より矢作川流域圏懇談会の活用概要を紹介いただきました。
- 青木座長には総評として本イベントのまとめをしていただきました。





### 3. 海ごみ減らそうフォーラムの開催風景



フィールドワーク：猿渡川



フィールドワーク：家下川



主催者挨拶



矢作川流域圏懇談会の発表



グループ討議



討議結果の発表

#### 【活動を通じて感じた事】

##### ◆よかったと思うこと

- フィールドワークで川ゴミ散乱状況の概要を知り、その後座学で、国、岡崎市、一般社団法人JEANはじめNGO、各種団体の取組の概要を知りました。フィールドワークを事前に行ったことでゴミに関する理解が深まったと感じます。

##### ◆改善してほしいこと

- グループ討議は皆で意見を出し合う場として重要だが、進め方の説明が短時間ではよく理解できず、「やり残し」感を持ちました。時間はありませんが、もう少し分かりやすく説明して欲しかった。

##### ◆今後に向けた進め方の提案

- グループ討議結果のフォローアップが欲しいと感じました。新たな取り組みを提言しているグループもあり、次のイベント機会などで改めて話題提供いただくなど。

##### ◆その他（質問・感想など）

- 川ゴミの視察箇所2ヶ所（河川）は、河川の中では「ゴミが多くないところ」という説明でしたが、それでも多くの紙ごみ、プラスチックごみが散在しており、このようなイベントや繰り返しの必要性を改めて感じました。
- グループ討議の結果を当日中に紙でよいので配布して欲しいと感じました。少なくとも自分の参加していないグループの討議結果を改めて知りたいと思いました。

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 市民会議編 vol.1



発行日：平成 30 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆矢作川流域圏懇談会第8回市民会議を開催しました！

12月22日（金曜日）に第8回市民会議が豊田市職員会館にて開催されました。今回の会議では、流域連携テーマやイベントの活動実績および今後の活動方針について、活発な意見交換を行いました。

日時：平成 29 年 12 月 22 日（金）14:00～16:00  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室  
参加者：15 名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 1. 流域連携テーマ・流域連携に関わるイベントの実施状況

#### 流域連携テーマ①：木づかい

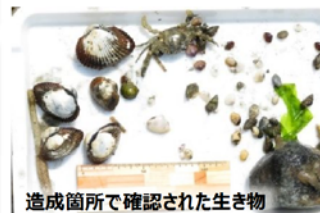
- 木づかいガイドラインの作成では、「さあ～しよう」という提案を市民、行政、業界、研究者に対して依頼する予定で、山部会では市民編について情報共有と意見交換を行いました。事例集交流会等のイベントで実践したいと考えています。
- 木づかいライブ・スギダラキャラバンにおいて、流域内外で約 40 回（平成 29 年度実績）におよぶ木づかい推進を行いました。
- さまざまな木のある暮らしのアイテム提案では、どこでもシリーズ、動く木のおもちゃ、流域ものさしなどを展示・提供し、市民（親子）に親しまれました。



動く木のおもちゃ

#### 流域連携テーマ②：土砂

- 東幡豆のトンボロ干潟では、平成 27 年に矢作ダムの土砂（約 30m<sup>3</sup>）を用いて造成しました。以降、定期的に自然環境の変化を調査しています。造成 1 年後には大型のアサリが確認され、良好な環境が創出されていることがわかりましたが、造成 2 年後の今年、小型のアサリしか見られませんでした。今後も継続的な環境調査を行い、造成の効果の持続性を確認する予定です。



造成箇所を確認された生き物

#### 流域連携テーマ③：ごみ・流木

- ごみに関しては、懇談会独自で漂着ゴミの調査を行ったり、海底の生き物およびゴミ調査のイベントに参加したり、さまざまな活動を行って参りました。今年度は、奈佐の浜プロジェクトが主催する膝前干潟エクスカージョンに海部会を中心に参加しました。この活動では、名古屋市のゴミ焼却場を見学し、海ごみの実態を視察しました。また、伊勢湾の漂着ごみの現状と各 NPO の活動報告、市民・行政・学識者が集まりごみを減らすためのグループ討議およびアイデア出しが行われました。



ごみを減らすためのグループ討議



事例集交流会



海ごみ減らそうフォーラム

#### 流域連携イベント

- 事例集 交流会（H29.4.15 根羽村）  
山村再生担い手づくり事例集に掲載された団体の代表者に現況をご報告いただき、意見交換を行いました。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、大変有意義なイベントになりました。
- 矢作川感謝祭（H29.9.2 豊田市）  
これまでは、豊田市民を対象とする川のイベントでしたが、今年度は山部会の部会員も実行委員会に加わり、参加団体には矢作川の上下流の農業、林業といった山の関係者も参加する流域を対象としたイベントに拡大しました。
- 海ごみ減らそうフォーラム（H29.11.25 岡崎市）  
愛知県主催の本フォーラムは、フィールドワークとして、矢作川支川の猿渡川と家下川で川ごみの実態を視察しました。その後、環境省における補助金制度、国土交通省の川ごみの対策、JEAN による奈佐の浜プロジェクトの活動報告、参加者によるワークショップが行われました。懇談会のメンバーも多く参加した活発な意見交換会となりました。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●流域連携テーマ・流域連携に関わるイベントの実施状況について

- ・矢作川感謝祭では、岡崎森林組合から岡森フォレストーズが森に関する歌で会場を盛り上げた。また、豊田森林組合からは高性能林業機械による枝払いや玉切りの実演があり、市民に対して森や林業に興味を持っていただくきっかけになったと思う。(今村)
- ・木づかいに関して、安城では補助金が出るようだが、そうなるまでにすいぶん苦労したのではないかと。(光岡)  
▶ はじめは自腹を切った。そのうち実績と真剣に取り組む姿が認められてオファーがくるようになった。(今村)
- ・ごみ・流木、土砂、木づかい、これが全部につながるのが「流域ものさし」だと思っている。流域人口 160 万人の 1%に行き渡ったとしても、共通のアイテムとして活かせると思う。(野田)
- ・トンボロ干潟の造成干潟の結果については、どのように考えているか。(今村)  
▶ 造成 1 年後は貝が多かったが、2 年後である今年は貧栄養の問題もあり減少していた。しかし、造成された場所は、何もしていない場所に比べ生物が残っていたことから、効果はあったものと考えられる。(高橋)  
▶ 新たな供給がなければ、おおよそ 10 年で効果はなくなるものと思われる。(井上)
- ・土砂については、矢作ダムで堆積砂を下流に流そうと検討している。また、栄養塩に関しては、矢作川や豊川の浄化センターで、冬季にリンを流す実験が行われるようだ。(末松)  
▶ 川の浄化センターでは、リンの排出をほとんどゼロに抑えている。しかし、生物のためには完全にゼロにしない方がよく、環境基準ギリギリまで出したらどうかという意見が聞かれた。(光岡)  
▶ 海部会の鈴木先生がかなり前から言われていたことだが、ようやくいろいろ実験されるようになった。これは、矢作川流域圏懇談会の成果だと思う。(高橋)

### ●今後の流域連携に関する課題と解決手法の検討

- ・豊橋河川事務所が事務局である懇談会でないと、産官学民の形がもたないと思われる。また、懇談会で発せられた意見が行政に伝わらないのではと懸念している。(浅田)  
▶ 流域圏懇談会が始まった時は半信半疑で会員になったが、想像以上に意見が世の中に通じることがわかった。山川海の横のつながりも増加し、実績はかなり上がっていると感じる。(高橋)  
▶ 豊橋河川事務所が懇談会を管理していると、他の行政は入りにくいのも事実だ。また、河川に身近な団体が懇談会に来ないのは、河川管理者が管理をしている組織だからだ。(山本)  
▶ 流域圏懇談会は、皆さんの手で動かしてほしいというのが我々の願いだ。(服部)
- ・山部会では事例集を作っているから、興味・関心があれば、その人に会いに行くことができる。アプローチとしては、川をいかだで下りながら、流域の人や物を実体験できれば面白い。(今村)  
▶ 矢作川にはダムがあるから、パーツに分ける必要があるが、駅伝みたいな感じで、竹や木のいかだで下る競争をしてはどうか。それができれば、全国放送するくらいのニュースになるだろう。(浅田)  
▶ 川下りイベントにしようというのは非常に良い提案だと思う。その際、弁当と一緒に砂を運べば、どれだけ大変な作業を自然の水が運んでいるかがわかる。過去の懇談会で議論になった砂の運搬ができるのではないかと。(野田)
- ・矢作川方式は報道機関をうまく利用したことで広がった。矢作川のイベントもできるかぎり報道しやすい環境を作るとよい。そうすれば、若い家族をはじめ、さまざまな市民を巻き込むことができると思う。(野田)
- ・河川区域に区画を設けて、団体等に貸してはどうか。そうすれば、河川に対する市民の意識が上がると思う。(菅原)
- ・ここから先は、もちろん各部会も大切であるが、部会同士の横のつながりが大切になると思う。(高橋)  
▶ 年に数回の市民を中心とした希望者が集まる会。つまり合同部会を行うはどうか。(光岡)  
▶ イベントには、部会に関係なく参加できれば良いと思われる。それには、垣根なく行ける雰囲気が必要だ。(高橋)



### ●振り返り

- よかったと思うこと:** 懇談会の在り方について、改めて議論ができた。/良い発言機会が得られた。/盛り上がった意見交換となった。
- よくなかったと思うこと:** 平日・年末という開催時期のため、市民層が少なかった。/流域連携の今後について、話し合いの時間が少なすぎである。一巡、二巡と参加者に意見を回すことにより、活発な意見交換ができたと考えられる。
- 今後取り組んでいきたい活動など:** 今回発言された提案について、グループワークで詰めてみたい。/本川の川下り、リバーウォーク駅構想、干潟供給砂運などのイベントは面白いと思われる。/各部会の活動成果について、情報交換したい。
- その他:** 部会合同の勉強会は有効だった。懇談会は潤滑油になるが、出られないこともある。お茶付きテーマWGも良いかと思う。

### 今後の流域圏懇談会の予定

#### ■第7回全体会議

日時：平成 30 年 3 月 20 日(火) 14:30~16:30 西三河総合庁舎 10 階 大会議室

#### ◆お問合せ◆

##### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、副所長 末松  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

### 1-3 平成 30 年度の活動計画

・流域連携テーマに係る活動として、以下の3項目を中心に市民会議、地域部会WGや合同部会等で取り組む。

